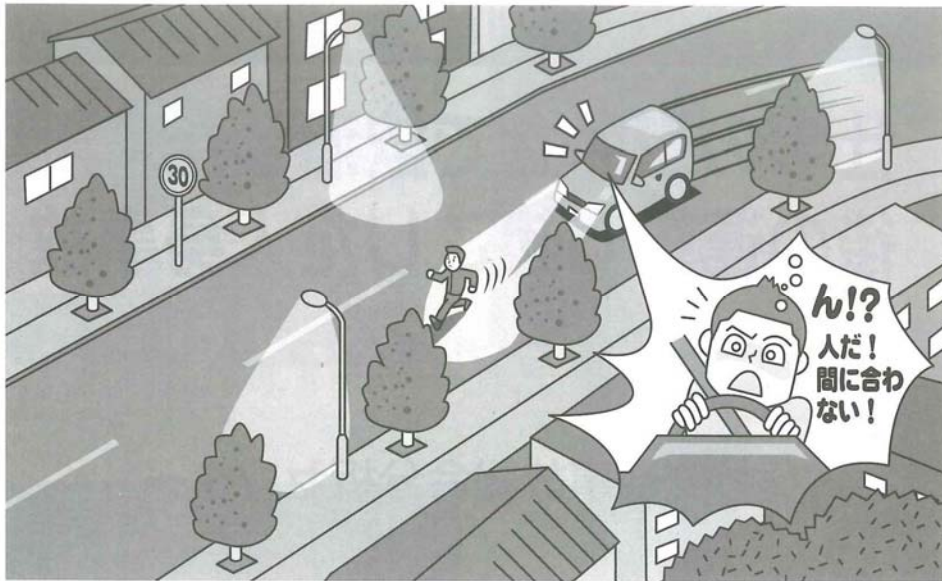


■事故の概況

人と車参照



事故類型：背面通行中

発生日時：深夜

当事者A：軽乗用車 20歳代 男性

当事者B：歩行者 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは仕事後の慰労会で飲酒し、深夜、かなり酔った状態で自家用車を運転し帰宅中でした。通い慣れた片側一車線の道路は街路灯が整備され、夜間でも見通しの良い走りやすい道で、制限速度30kmのところ、特に注意することもなく時速約50kmで自宅に向かっていました。緩やかな左カーブを過ぎたところで、突然約8m前方にジョギング中のBを発見し、とっさに右にハンドルを切りながら急ブレーキをかけたが間に合わずBの背後から衝突しました。

■ 事故から学ぶ

この事故はAの飲酒運転による注意力散漫による前方不注視が原因です。Aは過去にも飲酒運転を繰り返していましたが、事故の経験はなく酒に強いという意識から、自分だけは大丈夫だと思っていたそうです。

絶対にしてはならない飲酒運転に加え、夜間で交通閑散なことに気を許し、20kmの速度オーバーで周囲に注意することなく漫然と運転していたことも重なり、重大事故につながってしまいました。

飲酒運転が言語道断なことはもちろんですが、夜間は交通が少ないことから、漫然運転となりがちです。周囲の状況を注視し、歩行者の有無などに注意しながら安全な速度で走行することが大切です。